

中長期的な社会・経済等の変化について (中間報告)

観光庁

社会・経済等の変化 概要（中間報告）

- 次期の観光立国推進基本計画が前提とする**未来の状況を理解する必要がある**。新型コロナウイルス感染拡大が、どのように**社会・経済等に影響するかは引き続き注視**する必要があるが、現時点で、**社会・経済等の変化と、その変化がもたらす観光への影響を、文献調査・観光事業者や有識者へのヒアリングを基に整理した（中間報告）**。
- 社会・経済等の変化について、「海外・国内の社会・経済状況」、「消費者動向の変化・企業に求められる対応」、「技術革新」の**カテゴリごとに整理した**。

海外 社会・経済

アジア諸国等の
人口増加

先進国を中心と
した高齢化

アジア諸国等の
GDP増加

中産層・
富裕層の増加

国内 社会・経済

人口減少
少子高齢化

単身世帯の増加

女性・高齢者・外国
人労働者の増加

働き方の多様化

消費者 企業

オンラインサー
ビスへの適応

多様化する
消費者ニーズ

多様な働き方等へ
の対応

国境をこえた
サービス提供

技術革新

AI・ロボット等

IoT・
ビッグデータ
分析

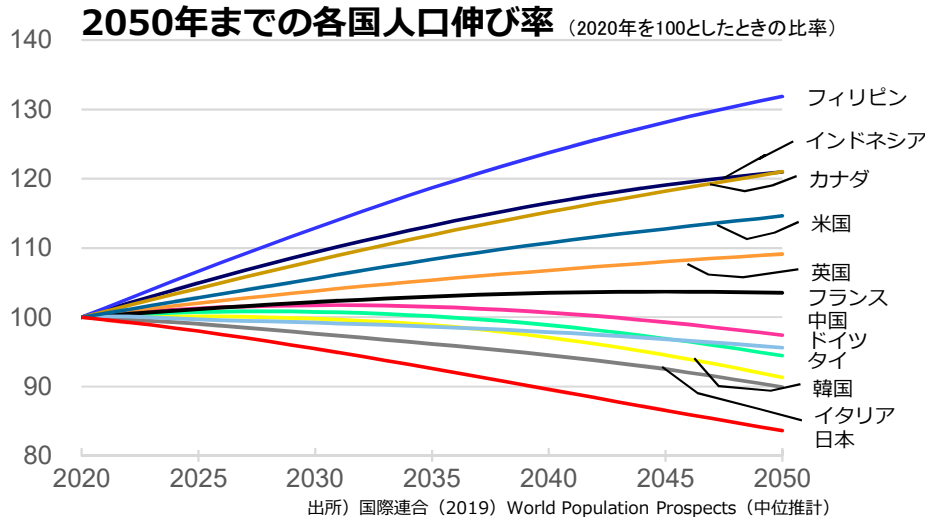
5G・
3Dホログラム等

自動運転

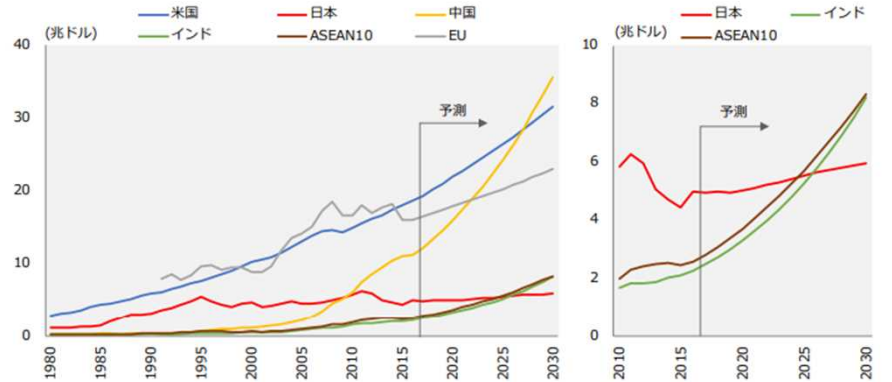
社会・経済<海外>

<人口構造の変化と経済的成長>

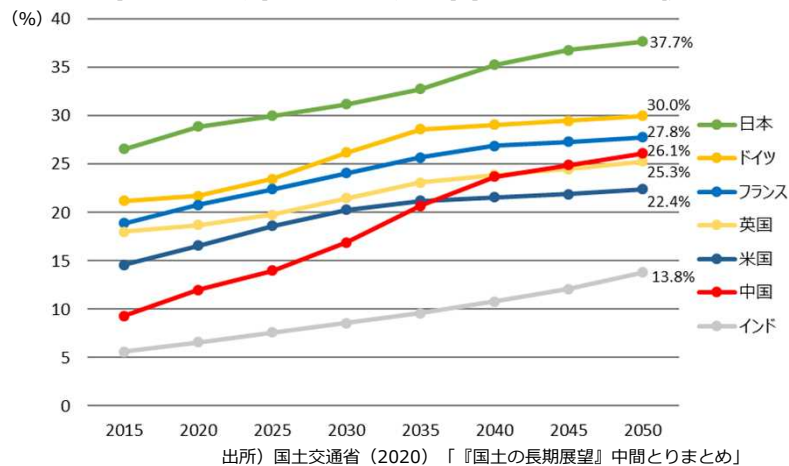
- 人口については、**インドネシア・フィリピン等の伸びが顕著**である一方、**韓国等は減少**する見込み。
- 先進国だけでなく、中国等で**高齢化が進む**。
- 経済成長については、**中国の経済成長が目覚ましく**、2020年代後半には**米国に追いつくと予測**されている。次いで**東南アジア・インドの経済成長**が見込まれる。
- これらの**アジア諸国で中間所得層が増加し**、**先進国と新興国の双方で富裕層が増加**する。



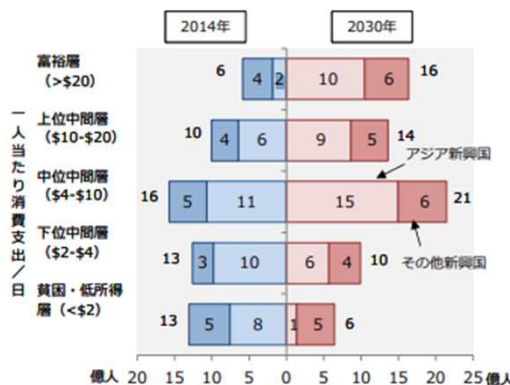
日・米・EU・中・印・ASEANの名目GDP規模の予測



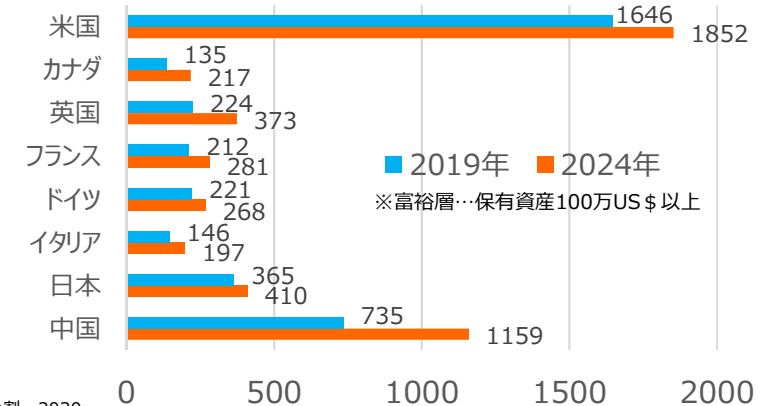
日本及び諸外国における高齢化率の推移



新興国の所得階層別人口



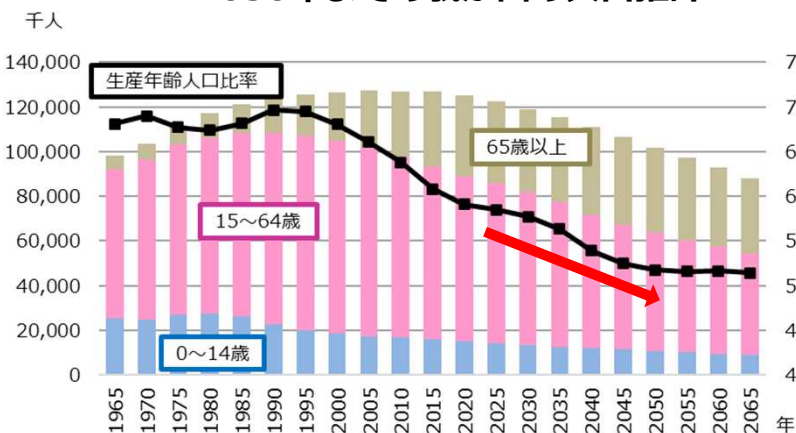
G7と中国の富裕層人口



<人口減少、人口構造の変化、働き方改革>

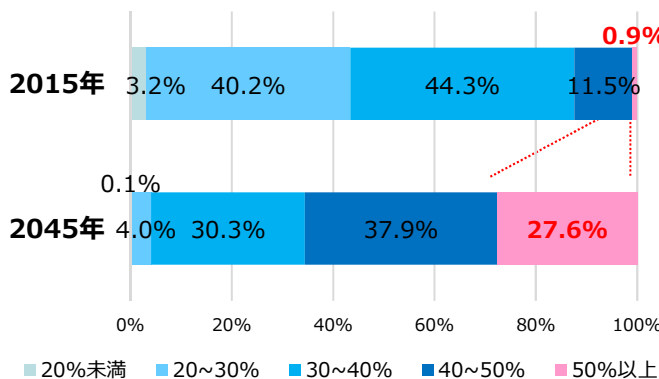
- 総人口が減少し、特に生産年齢人口（15～64歳）が減少、高齢者が人口の50%以上を占める市区町村は、2045年には約30%と見込まれる。また、引き続き単身世帯が増加すると見込まれる。
- 健康寿命の延伸を背景として、高齢者の雇用が増加。また、女性や外国人の労働者も増加する可能性がある。
- 働き方改革（テレワーク、積極的な休暇取得、副業等）や、都市と地方の二地域居住等が進展する可能性がある。

2050年までの我が国の人口推計

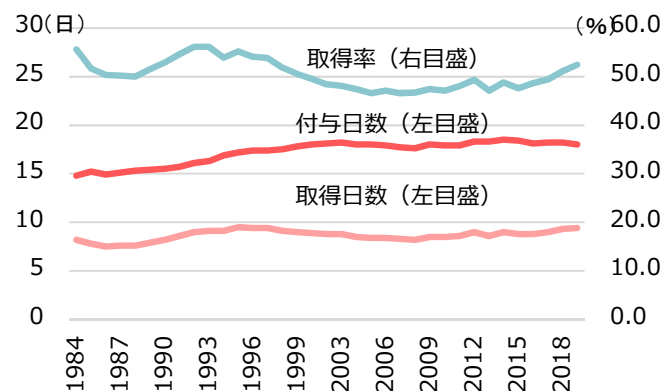


出所) 国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成29年推計)」より作成

65歳以上人口割合別市区町村の割合

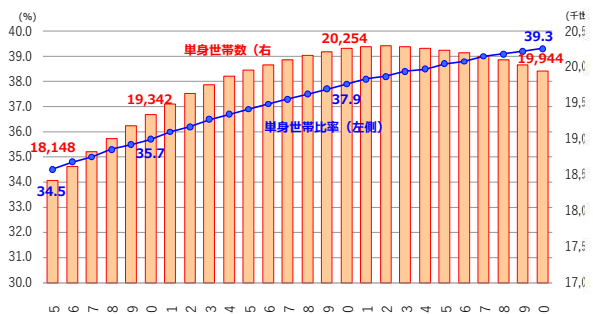


年次有給休暇の取得日数・取得率



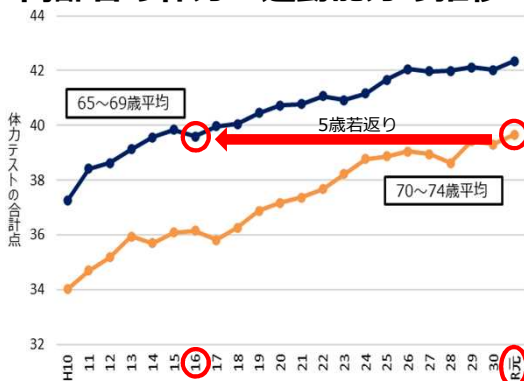
出所) 労働政策研究・研修機構(2020)「早わかり グラフでみる長期労働統計」

単身世帯数の推移 推計



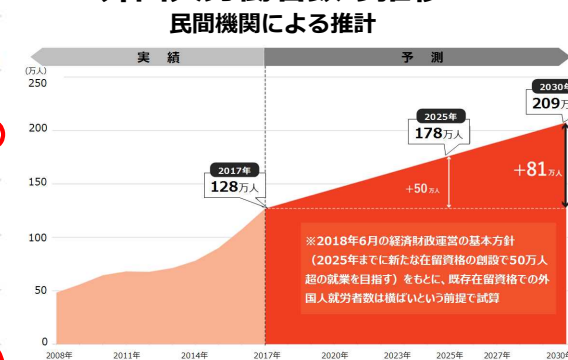
出所) 国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成29年推計)」より作成

高齢者の体力・運動能力の推移



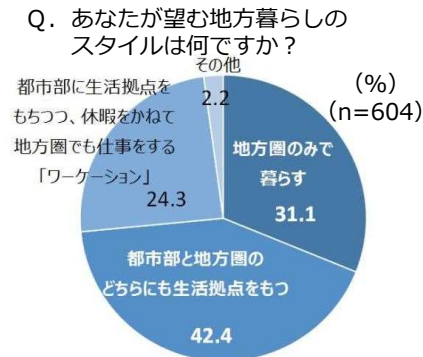
出所) スポーツ庁(2020)「令和元年度体力・運動能力調査結果の概要及び報告書について」より作成

外国人労働者数の推移



出所) パーソル総合研究所・中央大学(2019)「労働市場の未来推計 2030」

二地域居住等への関心



消費者・企業

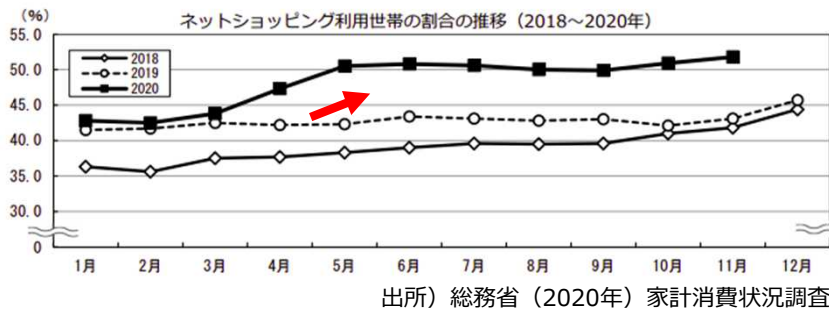
<消費動向の変化（オンライン・セルフサービス等）>

- コロナ禍において、様々な世代でオンライン・セルフサービスの利用が進んだこともあり、引き続き**オンラインサービス**や**セルフサービス**への選好が高まる可能性がある。
- **個人の嗜好にカスタマイズされた消費**や、富裕層や若年層を中心に、フードロスやフェアトレード、気候変動への配慮などの**持続可能性に配慮した消費**が増加する可能性がある。

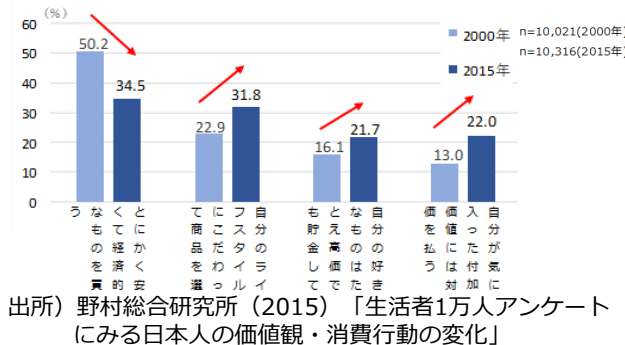
<企業の変化（多様な働き方への対応、社会的責任、競争環境等）>

- 企業には、**多様な働き方などの労働者側のニーズ**への対応や、消費者側の関心の高まり等も踏まえ、**社会・経済・環境**（気候変動・カーボンニュートラル等）等の**持続可能性への配慮**がより一層求められるようになる可能性。
- ITを活用し、**国境を超えてサービスを提供する企業**が増加する。

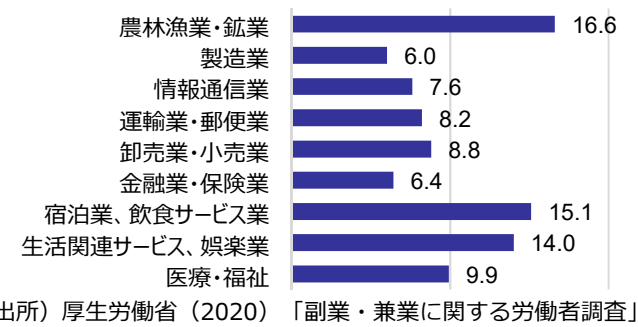
ネットショッピング利用世帯の割合の推移



日本人の価値観・消費行動の変化



副業者の割合

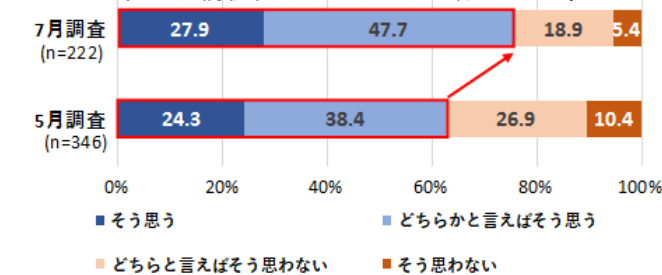


消費者のサステナブルへの関心の高まり

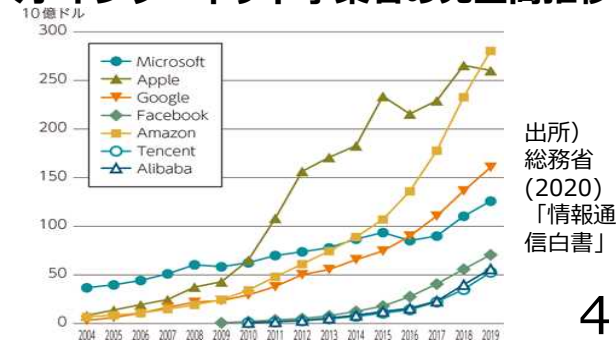
- 2015年に世界60か国、3万人以上の人々に調査。
- 66%の回答者（20代~30代の回答者では73%）がサステナブルな商品には、より多くのお金を払っても良いと回答。（2014年の調査時は55%）

出所) Nielsen (2015) 「Consumer-Goods' Brands That Demonstrate Commitment to Sustainability Outperform Those That Don't」

コロナ禍でのテレワークに関する意識変化 (コロナ禍収束後もテレワークを行いたい)



大手インターネット事業者の売上高推移



<生産性の向上>

- AI・ロボット等の進化や、電子署名等の普及により、企業等において自動化・省力化が進み、生産性が向上。例えば、チャットボットや多言語翻訳技術の活用は、省力化につながる。

<顧客ニーズに沿ったサービス提供>

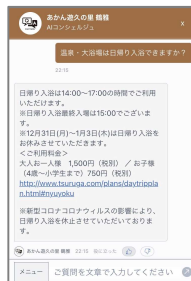
- IoT・画像認識等の活用による新たな消費者データの把握や、また、機械学習も活用したビッグデータ等の分析により、消費者の嗜好に合ったサービス開発や、プロモーションなどが進む。

<消費者の利便性向上>

- 5Gによりデータ通信速度・質の向上や、ARや3Dホログラム等の仮想現実サービス等により、複数の遠隔地とのよりリアルに近いコミュニケーションや仮想体験等が実現する可能性。
- 自動運転により、消費者の移動の利便性が向上。

チャットボット

- AIチャットボットにより、多言語で、質問に24時間で自動応答。
- 業務の効率化に加え、顧客満足度を向上。



ロボット

- アシストスーツは、身体に装着することで動作を補助。
- 高齢者等の力仕事をサポートできる。
- 掃除等のロボットも登場。



仮想現実

- 5Gの普及等を受け、3Dホログラムとビデオ通話を組み合わせ、よりリアルに近いコミュニケーションが可能。

IoT (Internet of Things)

- IoTにより、モノの遠隔操作や、多様な場面でデータ入手が可能となる。
- 例えば、IoT自販機は、顔認識カメラにより、顧客の属性情報を入手。



出所：株式会社ブイシク

ビッグデータの活用

- 様々なデータを機械学習等も活用して分析。
- 過去の天気データやSNSでの「つぶやき」等のデータを活用し、商品の需要を予測し、適切に在庫管理。



出所：京都市産業観光局広報資料

自動運転

- 米国では、本年夏にイエローストーン国立公園で、マイカーの混雑緩和を目的として、自動走行シャトルの社会実験が実施される予定。



<インバウンド>

- 新型コロナウイルス終息の時期はまだ見通せないものの、人口・経済要因を見れば、人口及び所得の増加から、**アジアを中心として国際観光需要が増加**する可能性がある。
- 各国での高齢化による**シニア層**の旅行需要や、**富裕層**の旅行需要が増加する可能性がある。
- 各国の経済成長を背景に、現在より様々な国からの訪日観光客が増加し、**多様な言語・文化への対応が必要**となる可能性。
- 2025年に**大阪・関西万博**が開催され、これを機に**我が国への関心が高まる**と考えられる。
- 海外出張需要は、対面での面会や現地訪問の重要性等は残るものの、**技術革新により一層円滑なコミュニケーションが実現**しうることも、需要に影響を与える可能性がある。

コロナ禍での変化

<アウトバウンド>

- 国内の人口は減少するものの、高齢化と健康寿命の増進により**シニア層の需要**が一定規模存在。他方、比較的、**他言語への抵抗感が薄い若者**の需要動向も重要。
- 働き方改革が進行することで、旅行機会が増加し、**一定の日数を要する海外旅行への需要**が拡大する可能性。
- 海外出張需要については、同上の見方が当てはまる可能性がある。

コロナ禍での変化

コロナ禍での変化

<国内>

- 国内の人口は減少するものの、高齢化と健康寿命の増進により**シニア層の需要**が一定規模存在。単身世帯の増加に伴い、**個人旅行などの旅行需要**が増える可能性。
- 働き方改革が進行することで、**平日を含めた旅行（ワーケーション等を含む。）**への需要が拡大する可能性。
- 国内出張需要については、同上の見方が当てはまる可能性がある。

コロナ禍での変化

コロナ禍での変化

<オンラインサービス等のより一層の活用>

- 若者だけでなく様々な世代で、旅マエ・旅ナカ・旅アトの各場面において、**オンラインサービス・セルフサービスの利用が拡大**する可能性。
✔ 例えば、旅行前にオンラインで移動・宿・レストラン・体験全てを事前予約、旅行中はスマートフォンで全て決済、入場等を実現。旅行後は、宿から定期的に届くメールから、オンラインで特産物を購入。

コロナ禍での変化

<観光消費の変化（パーソナル・コト消費・持続可能性への配慮）>

- **個人の嗜好が多様化**し、旅行者が様々な目的地・体験等を求めるようになり、**画一的ではなくパーソナライズされた旅行商品・コンテンツ**へのニーズが増える可能性。
✔ 例えば、目的地については、人気の観光地だけでなく秘湯のような観光地や、体験については、職人に学ぶ伝統文化など、「学び」などの別の価値が加わった体験コンテンツがより一層求められる可能性がある。
- モノではなく、**コト消費需要の増加**に伴い、**体験型の観光コンテンツ**の需要が高まる可能性。コロナ禍で密を避けられる自然体験に関心が高まっており、**自然関係の体験コンテンツ**が引き続き求められる可能性がある。
- 環境等への配慮など、**持続可能な観光への関心**から、**社会・経済・環境等に配慮した観光地・観光商品等**へのニーズが高まる可能性。

コロナ禍での変化

<人材確保・省力化>

- 国内生産年齢人口の減少に伴い、特に地方を中心として、幅広い業種で人材の確保が課題となる。この中で、**女性・外国人などの労働者の雇用が増加**する可能性がある。また、**副業人材の活用**等による人材確保などが進む可能性がある。
- **AI・ロボット等の活用による省力化**が進む可能性がある。これに伴い、観光分野においても**ICT・DXに関する知見を保有する人材**へのニーズが高まる見込み。

<テクノロジーを活用した新たなサービス提供>

- 移動・宿泊・食・体験などが、オンラインを通じて一括して販売されるなど、既存のOTAだけでなく、国境を越えたオンラインサービスを提供するIT企業なども含めて、**様々な企業が多様なサービスをオンラインで提供**する可能性がある。
- 様々なデータが入手・活用が可能となり、観光産業や観光地域づくり法人（DMO）などが、**データ分析に基づいて個人のニーズに合った旅行商品の開発・販売**などを進める可能性がある。
- VRやホログラムなどの**デジタル技術を用いた新たな観光サービス・コンテンツの開発**が進む可能性がある。

<観光産業等の変化>

- 他業種同様、**旅館等でも世代交代が進み**、その中では、**新たな主体が経営を担う可能性**もある。こうした中で、**旅行・宿泊等のノウハウを活かした新たなビジネス等**が創出される可能性。
- **SDGsや社会・経済・環境の持続可能性への関心の高まり**の中で、観光事業者や観光地側もニーズに対応する形で、より一層配慮を求められる可能性。